

雷の子

カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかにずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



母マリアはこれらのことを
すべて心に留めておられた
(ルカ 2-51)

塊根植物の個性・愛らしさ

主任司祭 小池 亮 太

秋も終わりに近づいた十一月半ば、木々の葉を揺らす風が冷たくなっているのに気がついて、慌てて窓の外に置いたままだった「観葉植物」を部屋の中に取り込みました。「観葉植物」のほとんどは、熱帯・亜熱帯原産なので、寒さに弱いからです。この「観葉植物」は、「葉の形、色や模様を觀賞する植物」ですが、その他に「塊根植物」と呼ばれる「幹や根を鑑賞する植物」

があります。「塊根植物」とは、太い根や幹を持った植物で、その膨らんだ部分に水分を貯め込むことで、乾季や干ばつに耐えることができます。「塊根植物」は、厳しい環境を生き抜くために幹や根を一生懸命太らせるのであって、良い環境にあると普通の植物と変わらない姿で生長してゆきます。しかし、幹や根が太っていてこそ「塊根植物」ですから、育てる人は与

える水をギリギリまで少なくし、風や日光に当てて厳しい環境を作り出します。それはいじめているのでも、意地悪をしているのでもなく、「塊根植物」の持っている本来の姿や能力を引き出すために必要なことなのです。また、育てる人は、あまり背が高くないように、そして、太い幹や根の特徴がより引き出されるように、思い切った剪定を繰り返します。植物は剪定されると、新しい枝を伸ばそうと幹から芽を吹くわけですが、その芽の出た場所や数がその木の個性になってゆきます。このように育てられた「塊根植物」の姿には、愛らしさと健気さを感じずにはいられません。

人間の目から見ると、私たち一人ひとりとは、様々な種類の植物に例えられます。「美しい形や色の葉を持つ植物」のように、そこにいるだけで心を癒してくれる人がいます。また、「美しい大輪の花を咲かせる植物」のように、華やかな存在感を放つ人もいます。「甘く瑞々しい果実をつける植物」のように、自分の才能を生かすことで人を幸せにする人もいます。

しかし、神の目から見れば、私たちは皆「塊根植物」のように見えるのではないでしょうか……。それぞれの人には与えられた時代と場所で、困難の待ち受ける人生を生き抜く力が備わっています。それを知っている神は、その人の存在意義、その人の本当の姿と力を引き出すために、あえて試練を与えます。そして、神を信頼して与えられた試練を引き受ける人は、その試練を乗り越える度に、自分の中に信仰と希望を貯えてゆきます。また、人生において、自分の一部をもぎ取られたような痛みを伴う体験をすることがあります。しかし、剪定された植物が新しい芽を吹くように、その出来事を通して自分の新しい部分が成長します。

受洗後、整えた事

運営委員 前田 充

そして、自分ながら思いもよらなかったところに現れたその新しい部分が、その人の個性や魅力となります。こうして「塊根植物」のように成長した人は、神から見れば、健気で愛らしい存在です。そうであるなら、冬の寒さで枯れてしまわないように、私が「観葉植物」を部屋の中に取り込んだように、神も必要な時に、その人をふさわしい場所に移して守り、決して滅びないようにするはずだ……。

暖かくなる春まで、食堂の隅に押し込まれて窮屈そうにしている植物たちを眺めながら、そのような事を考えていたのです。

「運営委員会」と言うテーマで、とのご依頼でしたが、限られた字数枚数ではとても書き切れないので、今回は別の事を書かせて戴きます。それは、私の受洗後の信者としての体裁を整えた過程、と申し上げたら良いか：形式的な軽いレベルの話なので気楽にお読み戴ければと存じます。

日本の信者さんの殆どは仏教徒（神道）の家に生まれ、その人生過程でキリスト教と巡り合い受洗された事と思います。私もその内の一人。父

は実質無神論者、母は女学校の頃受洗。姉は幼児洗礼。私は、父が「男は成人してから本人に決めさせよ」との事から、結局88年38歳で妻と共に受洗。二人の息子もその前後で受洗。これで父を除いて全て信徒の家となりました。

96年の「東京教区ニュース」に「東京地区最後の売出し」と云う見出しで「五日市霊園最終区販売の記事が載りました。私は本能的に購入を決定し申請（当時、町田の共同墓地は無かった）、翌97

年正式に取得しました。その3年後の2000年父が死去。当然の如く仏式で弔い菩提寺に納骨しましたが、私の中に思う所が有りましたので、骨壺に分骨して戴きました。

06年母帰天。生前母にどちらの形で弔うか確認した所、仏式でそして父と一緒にのお墓に入れて欲しい、但しその後追悼ミサを...との事でした。この時も事前に母の了解を得ていた事も有り、分骨させて戴きました。

07年、取得していた五日市霊園に建墓、高木神父様に分骨してあったお骨を納骨して戴きました。

その後、叔父との話し合いで、菩提寺の墓守と自宅に在った仏壇の引き受けを了解して貰える事になりました。もう一つ、我が家に残っていた神棚は、近所の神社へ持参、宮司さんにお祓いをして戴いた後引き取って戴く事が出来ました。

実際はこの一連の流れの中で、種々の山坂は有ったのですが、紙面に制限も有る為、説明不足の部分や誤解を招く表現が有りましたらお許し戴きたいと存じます。この私の一信者としての拙い「信者体裁史??」が、皆様の多少の参考にもなつて戴ければ幸いです。最後に、先般秋の一日、小

池神父様の司式で、改めて両親の「追悼ミサ」を挙げて戴いた事を記させて戴きたいと思います。

町田教会ヤコブ祭

実行委員長 仁藤 芳栄

教会文化祭とバザーの二本立てで行う町田教会初めての試みであるヤコブ祭は、そもそも三年前私が運営委員会にいたころ、高齢化によるバザー廃止と縮小の提案がなされる中、小池神父様が「教会の一信徒から教会文化祭という発案が出されているよ!」と言われた一言から始まっています。その後地域ブロック連絡会の議長となった私は、新しい教会行事の見直しに取り組んでみようと思いました。前回のバザーの終了後、すぐに話し合いを始め、時期尚早と言われる中、地域ブロックの方々に行行事への理解とそれを浸透させ実行するためには二年あっても時間が足りないくらいだと思いました。実際、話が噛み合うまで半年から一年かかり、教会行事の過渡期にあつて、高齢化によりバザーを縮小して欲しいという意見、まだバザーをやりたいという意見、文化祭に關しては日頃活動している方々の発表と、子供たちの発表・作品展示の場を設けて、練習

★新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所

2015年待降節第1主日(11月29日)から実施。変更箇所は主に司祭の所作。信徒に關係する箇所等をルポ(池永)

★司祭の祭服
アルバとストラの上にカズラを着用
(デントのような円形)
Casaカーサ(いざな家)
プラネタ(小惑星)とも言う
ストラ(Stola十字架の横木)
細長い帯形
アルバ(Alba白布)
チングルム
(アルバの長さを調節する腰ヒモ)

★沈黙 ミサ中・ミサ前後
教会堂内
隣接場
第I・第II
朗読後
説教後

★栄光の讃歌
全員一緒に歌う

★聖体拝領
立って拝領
(特別な理由がない場合)
IN・E

★奉納
共同祈願後
すぐ座る
奉納の歌を歌う

★ミサの中で基本は立つ・座る
共通の姿勢を守ることはキリスト者共同体の一致のしるし
座る
ひざまずかない

★祭壇上、又は近くに磔刑のキリスト像のついた十字架を置く

★ろうそく
救いのために命をささげたキリストを思い起こすため
主日・祝日
4~6本 7本
教区の司教の司式のときは

★祭壇の装飾
四旬節中は控えめに!
主の誕生の喜びを先取りしない

★福音朗読
〇〇〇による福音
読んだことを信じ
信じたことを教える
主に栄光
教えを実行する
会衆も額・口・胸に十字架のしるしをする

★アレルヤ唱
アレルヤ
会衆
聖歌奉仕者
(いないときは全員で!)

★ラバウ
司祭が手を清めたあとに使う布
手洗いの水
★ボドウ酒
★チボリウム
(聖体容器)
Chiborium
フタ付き
★ピクシス
病人に聖体を運ぶ器
★ベル
会衆の意識を高めるための合図
ラテン語ミサのとき言葉のわからぬ信徒のための合図の多様性
★コルポラレ
祭壇布の上に掛け
聖体のかけら
こぼさぬための布
★パテナ
(聖体皿)
★プリフィカトル
(カリス・チボリウムを拭く布)
★オステンシウム
(聖体顕示台)
聖体賛美式に使用
★香炉と舟
荘厳なミサに
(通夜・葬儀)
★クラッパ
聖週間のベルの代用
聖木曜の栄光の賛歌以後復活徹夜祭の栄光の賛歌までオルガンなど鳴り物をいれるので

★祭器具について
この際よくとお勉強

9月13日に、テーマ(教会法から見直す私たちの教会生活)の田中 昇神父の講演会がありました。

★新しい「ローマ・ミサ典礼書の法則」に基づく変更箇所、カトリック中央協議会で無料配布。ネットでダウンロードも!



等を通して子供たちと教会との繋がりを作るきっかけにして欲しいなどの意見が活発に出されました。

当初、小さな宣教目的で外部の方々を招く案も出され、飲食の関係で保健所の許可が必要となるため保健所と何回か話し合い、簡単な許可を取り付けたのですが、最終的に小池神父様の判断で保健所を通さず教会内部の方々を対象としたイベントでゴーサインが出されました。結果はどうあれチャレンジしてみようという地域ブロックの皆さんの声も高まり、文化祭発表の方々も一年近い練習を積んで今回の開催の運びとなりました。

みんなの大きな輪が噛み合い、多くの方々のご理解と協力によって実現出来た事を実行委員長として心より感謝申

し上げると共に、今回のヤコブ祭が今後の町田教会の新行事の方向性を見出すことに少しでも役立つことが出来ますようお祈り申し上げます。

バザー収支報告

収益金	240,800円
使途	
町田教会	
被災地支援センター	120,400円
建設営繕積立金	120,400円

福島県の仮設住宅を訪ねて

町田教会被災地支援センター
事務局 立木 欣吾

10月24日に福島市内にある宮代仮設住宅集会を訪ねた。

集会所はこじんまりとした場所で、30名ほどの被災者が来られると部屋の中は歩く隙間もないほどだった。男性が6名、平均年齢は70歳を超えるくらい。30歳を下回る若い人や子供は見当たらなかった。ほとんどは原発近くにある浪江町の出身で戻ることの出来ない地域の方である。

当日は10月の誕生月のお祝い会と、イソジナという神戸の六甲教会から来た女性ばかりのコーラスグループのコンサートがメインの催し。イソジナはその名の通り五十代が中心、絶妙なシャベリと全国各地で活動をしているプロ級のコーラス実績。そして

彼女たち自身が20年前の阪神淡路大震災で被災しており、被災者の気持ちに寄り添うような歌声と話に、被災された方々は、涙を浮かべたり笑ったり、夢中になって耳を傾けていた。見ていて、改めて歌の持つ力に心打たれた。

その後、松木町教会の方が準備されたカレーライスに舌鼓を打った。テーブルの上に用意された地元のリングゴは入居者の方が剥いてくれた。中には新しく家を建てて県外に出ていく人もいるが、家を建てて引越すことも出来ない人たちも多くいる。

ベテランのボランティアから、複雑な気持ちを抱えたままこの集会所に集まっているからいろんなことを聞かないようにしてほしい、と説明を受けた理由がわかったような気がした。

それでも、大きな笑い声でおしゃべりしている入居者を見てみると、仮設住宅がある以上、こうした入居者が交流して気持ちを開放できる場を作っていくことは今後も欠かせないと思った。

宮代仮設住宅での催しは不定期ではあるが、引き続きイベント内容を変えて催される予定である。

主が私たちを生み出したクリスマス

レデンプトル修道会 井上 武神父

小さな子供たちに「クリスマスって何か知ってますか？」と聞くと、とても面白い答えが返ってきます。

「ケーキのお祝い」「イエス様の誕生パーティ」「プレゼントの交換」などなどで。正解は、もちろん「イエス様のお誕生日祝い」です。でも大切なのは、そのことで私たちが、大きな喜びを頂くことです。キリストは私たちの光です。闇の中に輝く光が、どれほど明るいかわかる、いい方法があります。

皆さん、夜空を飛行機で飛ぶ時、はるか真下の車のライトまではつきり見えるのに、驚かれることでしょう。イエス様をお迎えする待降節から、降誕

のクリスマスへ近づく年の瀬に、私たちは光を目指して歩みつつ、気持ちの高まりを感じることでしよう。そしてイエス様が降誕されたからこそ、今の私たちが生まれた恵みを喜びましょう。

そうです。私たちはみんな洗礼によって神様の子供になりました。そしてイエス様を知らない人に光を届けなさい、と神様から励まされています。私たち一人一人は一本のローソク。クリスマスに灯を点してイエス様のお家へ、感謝とお祝いの心で集いましょう。

(二〇一五年待降節)



セオドア・エンザナ
Theodore NDZANA

日本とカメルーンのカトリック教会の違いについて書いてみようと思いますが、初めてのことなので、いたらない点はお許しください。

・ 2千万の人口に対し、6百万人の信者

- (1) ミサ聖祭の時間
(2) ミサの指導スタッフ
(3) 秘跡のための準備
(4) 小教区の運営

カメルーンのミサ聖祭の時間は日本よりはるかに長く、

約1時間半です。司祭の説教は平均30分、場合によっては1時間かかることもあります。日本では、ミサの時間は通常1時間足らずで、黙想や黙祷が重視されています。これは沈黙を尊ぶ日本の文化と無関係ではないでしょう。

カメルーンでは、説教のあいだに司祭が信者に質問をし、信者が手を挙げて答えるという場面もあります。日本では、司祭はその日の朗読箇所について説明をし、福音全体の理解を助けてくれます。

これは、ミサに来る信者を補佐し指導する係のことです。

日本では、信者が快適に席に着き、ミサが最適な祈りの条件のうちに進行するよう環境を整えるという、技術的あるいは安全面の役割が主で、そこには思いやりが感じられま
す。信者数が少なく、高齢者が多いからでしょうか。

信者の数が圧倒的に多いカメルーンでは、指導スタッフは特に若年者の監督的役割を担い、行儀が悪かったりおしゃべりをする子は外に連れ出されます。教育目的と、他の信者たちの祈りを妨げないためです。彼らはまた、信者たちの服装にも目を光らせます。ミニスカートの女性、半ズボンの男性は、聖堂に入ることが許されません。

☆新年のミサ1月1日(金) { 11:00

(個人情報のため、削除しています)

